

図書室開設プロジェクト Vol.2 (06/11/2010)

★子どもたちと作る図書室……それが生きる力へとつながることを信じて



2010年11月1日(月)POWER HOWR INTERNATIONAL SCHOOL のシニアクラス(4・5)の教室を借りて図書室をオープンすることが出来ました。開設時間は授業の終わる15時～16時まで。今回の図書室オープンに際しての大半の本は、細様から寄付された一万円で購入しました。子どもにいろんなことを体験させることも子どもが育つ過程で大切なことと考えています。今回のオープンに際しての看板書きなどは、シニアクラス5の子どもと行いました。写真右、どこでこんな調印式スタイルを知ったのか？本の授与式やっています。

★本の紛失から考える本の管理と、子どもと考える本の借り方の方法



図書室開設2日目になる5日(金)。前日から子どもたちは楽しみにしていた日です。前回の開設の日、「家に持ち帰って読みたい」という子どもが大半でした。正直な気持ち、貸してあげたいけれど、きちんと扱ってくれるのだろうか？またちゃんと戻ってくるのだろうか？という気持ちで、初日は貸し出すことが出来ずにいました。けれど、本当に絵本を楽しみにしている子どもたち……クラス4・5には、学校に冊子タイプ(パンフレットの大きさ)の絵本はあります。その絵本を読めるのは、どちらかが授業をしていて、

本日分の授業がすべて終わったほうが読めて、持ち帰ることが出来ません。また、英語の教科書に日本でいうなら(ごんぎつね)や(スーホの白い馬)のように有名なお話が載っていますが、教科書も、授業で使うときに貸し出される時以外は、宿題をやるときに貸し出されるだけで、子どもたちは存分に絵を楽しんだり、活字を読むという機会が無いように、この1カ月で感じました。絵本を持ち帰りして、自分でゆっくり見たいのだと感じ、5日(金)貸出しスタートしました。図書室についての話は、クラス5の英語の教科書にあります。しかし、実際にこれまで、図書室の利用をしなかった子どもたちが本を借りる・・・図書室利用カードを作るというのは、初めてのことだらけで、わからないことが多くあったかと思います。



そうしたこともふまえて、この図書室で、たくさんの方のことを学んでほしいと思っています。今回、自分の管理体制、子どもたちへの説明不足で本が1冊行方不明になってしまいました。本が出てくることを願うだけで、本を黙って持って帰ってしまった子(よく探せば、どこからか出てくるかもしれないです)を問いただす気持ちはなく、図書室の利用の仕方を再度、子どもたちに説明していくのが次のステップと考えています。子どもたちにも私の考え方・想いを上手に伝えたいです。たとえ黙って持って帰ってしまった子が居ても、ケーンで叩くことは、体の痛みしか与えず、ただ悪いことをしたから・・・というだけで終わってしまいます。本の大切さ、子どもも含め私もですが管理することの大事さ、図書室を通してたくさんの方のことを学んでほしい私の願い、これが図書室プロジェクトだと思っています。

本の購入金額は、小さい B5 版の絵本タイプでだいたい3セディ(日本円で200円弱)このあたりの本が子どもに人気です。今後、月5000円くらいの購入予定で本を探し廻りたいと思っています。また、広島医師の祈り財団の助成金申請やりたいです。図書室にいずれは、広島長崎原爆写真パネルを展示したいです。

今回、図書室の名前は(トシコ・ライブラリー)にさせて貰いました。子どもたちにスプートニクという名前より私の名前が浸透していたからです。

トシコ・アブナ